

**令和7年度（2025年度）4月入学生  
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科  
博士前期課程（芸術工学専攻）  
学生募集要項**

**大学院芸術工学研究科博士前期課程（芸術工学専攻）の概要**

### 名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

### 芸術工学研究科の教育目標とアドミッション・ポリシー

#### 【教育目標】

芸術工学研究科は、「技術」、「感性」および「人間理解」を3本柱に、幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を身につけ、デザインの理論と実践を通じ持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標とします。

#### 【アドミッション・ポリシー】

##### ・求める学生像

高度の専門職業人あるいは博士後期課程へ進学し研究者を目指す。

##### ・修得しておくべき知識の内容・水準

- (1) 情報環境デザイン領域、産業イノベーションデザイン領域、建築都市領域いずれかの学部卒と同等の専門知識あるいはデザインの技量が求められます。
- (2) 博士前期課程の学位論文を執筆できる論理構成能力、あるいは、学位作品を制作できるデザイン能力が求められます。
- (3) 高度な専門知識および技法の習得のための国際的な視野に立った情報収集、および、コミュニケーションを可能とする語学力が求められます。

**修業年限** 2年

**入学定員** 30名

### 授業の開講方法

#### 【博士前期課程の授業開講時間】

月曜日～土曜日	1時限	9:00～10:30	
	2時限	10:40～12:10	
	3時限	13:00～14:30	
	4時限	14:40～16:10	
	6時限	18:00～19:30	
	7時限	19:40～21:10	※第5時限は原則として授業は開講されない

※ 授業形態は「昼夜開講制」を採用しているため、社会人が職を有したまま大学院に入学することも可能であり、月曜日～金曜日の夜間（6時限・7時限）及び土曜日の授業のみの修学でも履修可能となっている。ほとんどの授業科目開講時間帯は隔年で昼夜交代する。

【学期区分】	前期	4月1日～9月30日
	後期	10月1日～3月31日

### 履修方法及び学位授与

2年以上本学に在学して、所要科目を履修して30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ修士の学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士（芸術工学）の学位を授与する。なお、学位論文に代えて特定の課題についての研究成果（制作作品等）を提出することもできる。

## 1 募集人員 芸術工学専攻

### A類

- ・学内推薦
  - ・一般選抜
- 上限 20 名

※1 合格した場合は必ず本研究科に入学することを確約する者。

※2 本年度中に他大学院に出願する者は、A類で出願することはできない。その場合はB類で出願すること。

※3 A類の出願時に職を有する者は、選抜方法：「一般選抜」で受験のこと

### B類

- ・一般選抜 A類合格者も含め 30 名
- ・社会人特別選抜 若干名
- ・外国人特別選抜（私費外国人留学生）、外国人特別選抜（国費・県費等外国人留学生） 若干名

○A類およびB類の合格者の合計が募集人員に満たない場合は追加募集入試を実施する。募集の有無は、10月下旬ごろ本学ウェブサイトにて発表する。

### 追加募集

- ・一般選抜 若干名
- ・社会人特別選抜 若干名
- ・外国人特別選抜（私費外国人留学生）、外国人特別選抜（国費・県費等外国人留学生） 若干名

※B類および追加募集の出願時に職を有する者は、選抜方法：「社会人特別選抜」で受験のこと。

但し、2 出願資格(3) 社会人特別選抜に該当しない者は、「一般選抜」で受験のこと。

※募集人員には「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」(P10 参照) の入学生を含む。

## 2 出願資格

### (1) 一般選抜

ア 大学を卒業した者または令和7年3月までに卒業見込みの者

イ 学校教育法第104条第4項の規定により、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者または令和7年3月までに授与される見込みの者

ウ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または令和7年3月までに修了見込みの者

エ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または令和7年3月までに修了見込みの者

オ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者または令和7年3月までに修了見込みの者

カ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であってオの指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む）により、学士の学位に相当する学位を授与された者または令和7年3月までに授与見込みの者

キ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者または令和7年3月までに修了見込みの者

ク 文部科学大臣の指定した者

ケ 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、当該研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者

コ 本学芸術工学研究科において受験資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7年3月31日までに22歳に達するもの

※上記「ケ」又は「コ」で出願しようとする者は、出願前に受験資格審査（P3 3 出願資格「ケ」又は「コ」による受験資格の審査について）を受けること。

(2) 学内推薦

名古屋市立大学芸術工学部に在学する学部卒業見込者のうち、学業に優れ出願有資格者として認められた者で、上記(1)の「ア」に該当する者

(3) 社会人特別選抜

令和7年3月31日までに企業、官公庁、教育・研究機関等において通算して2年以上勤務している者または、これに準ずる経歴を有するものと本研究科が認めた者で、かつ令和7年3月31日までに24歳に達し上記(1)の「ア」から「コ」までのいずれかに該当する者

(4) 外国人特別選抜

外国人であって、上記(1)のウ、エ、カ（外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であってオの指定を受けたものにおいて課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者または授与見込の者を除く）、ケ、コのいずれかに該当する者

※ 本学で受け入れている国費外国人留学生は以下の要件を満たすもので以下の3つの選考方法のいずれかで採用された者とする。

【要件】

学部卒業程度以上で、日本の大学院において教育・研究指導を受ける者。留学期間は原則2年以内または大学院正規課程の標準修業年限以内。

【選考方法】

- 1 大使館推薦（海外にある在外日本国大使館等を通じて募集する）  
※他大学の大学院に国費外国人留学生として在籍し、引き続き国費外国人留学生として本学大学院出願する者は事前に相談すること。
- 2 大学推薦（日本国内の大学が主に大学間交流協定により海外の協定校から募集し、推薦する）
- 3 国内採用（日本国内の大学が在学する私費留学生を推薦する）

3 出願資格「ケ」又は「コ」による受験資格の審査について

出願資格「ケ」又は「コ」により出願する者は、指定の期限までに、以下の書類を提出すること。また、これらを日本語以外で記入する場合は、日本語訳を添付すること。国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行うこと。国外からの郵送による申請は認めない。本学からの通知も代理人あてに行う。

なお、審査結果は審査終了後、速やかに本人又は代理人宛てに通知する。

書 類 等		摘 要
①	資格審査願	[本学所定用紙様式5使用]
②	業績書	[本学所定用紙様式6使用]
③	業績書に記載した内容を証明する書類	任意の様式で提出すること。
④	履歴書	[本学所定用紙様式2使用] ※1
⑤	卒業証明書（卒業見込証明書）	最終学歴の卒業証明書を提出すること。 ※1
⑥	成績証明書	最終学歴の成績証明書を提出すること。 ※1
⑦	返信用封筒	(資格審査結果の通知に使用) 長形3号封筒に344円切手を貼付し封筒表面に返信先住所、郵便番号、宛名を明記したもの

※1 ④⑤⑥の詳細については、P5 5「出願書類等」の摘要欄に準ずる。

- ・受験資格審査合格後、出願する場合は「履歴書」（本学所定用紙様式2）、「卒業証明書（卒業見込証明書）」及び「成績証明書」を再提出する必要はない。
- ・修了証明書及び成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出すること。

《審査申請期間》

- ・A類 令和6年 5月13日（月）～ 令和6年 5月23日（木）[必着]
- ・B類 令和6年 7月 8日（月）～ 令和6年 7月18日（木）[必着]
- ・追加募集 令和6年11月11日（月）～ 令和6年11月21日（木）[必着]

※ 提出方法、提出先については、封筒の表に「芸術工学研究科博士前期課程 資格審査書類在中」と朱書きし、〔学生課入試係 芸術工学研究科担当〕（P 4）に、必ず書留速達で郵送すること。申請は郵送に限る。窓口受付は行わない。

#### 4 出願期間・出願方法・事前面談の実施について

##### (1) 出願期間

- ・ A類（学内推薦含む） 令和6年 6月3日（月）～ 6月14日（金）〔必着〕
- ・ B類 令和6年 7月29日（月）～ 8月9日（金）〔必着〕
- ・ 追加募集 令和6年 12月2日（月）～ 12月13日（金）〔必着〕

※A類・B類の合格者数合計が入学定員に満たない場合は追加募集入試（一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜）を実施する。

##### (2) 出願方法

- ・ 郵送に限る。窓口受付は行わない。
- ・ 必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>を角型2号の封筒（ご自身でご用意ください）に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送すること。
- ・ 国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行うこと。国外からの郵送による出願は認めない。本学からの通知も代理人宛てに行う。
- ・ 期限までに到着しなかった場合は受理しない（期間内消印有効でないので注意すること）。
- ・ 出願書類を受理したときは、受験票、試験場案内等を送付する。
- ・ 以下の日程を過ぎても受験票等が届かない場合は〔学生課入試係・芸術工学研究科担当〕に照会すること。

A類 令和6年 6月28日（金）  
B類 令和6年 8月26日（月）  
追加募集 令和6年 12月27日（金）

- ・ 外国の高等教育機関で発行された最終学歴の卒業証明書等で、再発行ができないものについては、コピーで可とする。再発行できないものについては絶対に送付しないこと。ただし、合格者は入学手続き時に原本を持参すること。

##### (3) 指導を希望する教員への事前確認（面談）実施について

受験希望者は、出願締切に間に合うように前もって指導を希望する教員にメールで連絡し、研究内容等について十分に話し合うこと。入学後の指導教員の変更は原則として認めない。

- ・ B類、追加募集で出願し第2希望教員がある場合は、第1希望教員と同様に第2希望教員とも事前面談を行うこと。（入学試験の結果、第1希望の指導教員の受入定員を超えた場合には、成績により第2希望の指導教員に配属される場合がある。）
- ・ 各教員の電子メールアドレスについては、名古屋市立大学 大学院芸術工学研究科・芸術工学部オリジナルサイト「教員紹介」を参照のこと（<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/teacher/>）。メールには、返信希望のメールアドレス、電話番号などを明記すること。指定がない場合には、発信元のメールアドレスに返信する。
- ・ 指導を希望する教員に連絡をした後、数日を経ても返信がない場合は下記事務室へ電話で照会すること。

芸術工学部事務室 電話：052-721-1225

- ・ 出願締切前までに、指導を希望する教員との面談を終えたことを以下のメールアドレスに連絡すること（①受験生氏名、②指導を希望する教員名）。

芸術工学部事務室 e-mail : [jimu@sda.nagoya-cu.ac.jp](mailto:jimu@sda.nagoya-cu.ac.jp)

出願書類郵送先・入学等に関する照会先

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  
名古屋市立大学 学生課入試係 芸術工学研究科担当  
電話 052-853-8020  
FAX 052-841-7428  
E-mail [shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp](mailto:shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp)

## 5 出願書類等

### (1) 出願書類 (A類: 学内推薦)

書 類 等	摘 要
① 入学願書 受験票	[本学所定用紙様式1使用] 照合写真票は何も記入せずそのまま切り離さず送付すること。
② 学内推薦 有資格者通知	先に発送した通知書を必ず同封すること。
③ 住 民 票 (外国人の場合)	日本国籍を有しない者は提出すること。詳細は(2)⑧を参照のこと。
④ 入学検定料等 (30,344円)	[本学所定振込依頼書を使用] 詳細は(2)⑨を参照のこと。
⑤ あて名用シール	[本学所定用紙使用] 返信先を明記すること。詳細は(2)⑩を参照のこと。
⑥ 出願書類提出用封筒	出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>に必要事項を記入すること。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛て郵送すること。

### (2) 出願書類 (A類: 一般選抜、B類、追加募集)

書 類 等	摘 要
① 入学願書 照合写真票 受験票	[本学所定用紙様式1使用] <b>写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼付すること。</b> 受信場所は、確実に連絡が取れる所を記入すること。
② 履 歴 書	[本学所定用紙様式2使用] 学歴は、中学校卒業から記入し、大学院等の研究生、日本語学校等の在学歴、職歴があればそれらも記入すること。 出願資格「ウ」、「エ」、「オ」、「カ」又は「ケ」(外国において学校教育を修了した者のみ)により出願する者は、初等教育(小学校相当)から高等教育(大学相当)まで、修了した学校教育をすべて記入すること。 社会人特別選抜・外国人特別選抜による出願の場合は、職歴の古いものから順に在職年数とともに記入すること。 日本語以外で記入する場合は日本語訳を添付すること。 ※出願資格「ケ」又は「コ」により出願する者は、受験資格審査を申請する際に提出すること。
③ 卒業証明書 (卒業見込証明書)	在籍又は出身大学長が作成したもの。大学院修了(見込)者は、その修了(見込)証明書も提出すること。 出願資格が「イ」又は「ク」により出願する者は、資格を証明する書類を提出すること。 出願資格「ウ」、「エ」、「オ」、「カ」又は「ケ」(外国において学校教育を修了した者のみ)により出願する者は、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の卒業証明書を提出すること。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付すること。 証明書に直接書き込んではいけない。コピーは不可。ただし、外国の高等教育機関(大学等)で発行された証明書で再発行ができないものについてはコピーの提出を認める。この場合、原本は送付しないこと。合格者は入学手続時に原本を持参すること。 ※出願資格「ケ」又は「コ」により出願する者で提出可能な場合は、受験資格審査を申請する際に提出すること。

④	成績証明書	<p>大学卒業（見込）者は、在籍又は出身大学長が作成した成績証明書を提出すること。出願資格「ウ」、「エ」、「オ」、「カ」又は「ケ」（外国において学校教育を修了した者のみ）により出願する者は、外国において修了した高等教育機関（大学相当）の成績証明書を提出すること。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付すること。証明書に直接書き込んではいけない。上記以外の出願者は、最終学歴の成績証明書を提出すること。</p> <p>コピーは不可。ただし、外国の高等教育機関(大学等)で発行された証明書で再発行ができないものについてはコピーの提出を認める。この場合、原本は送付しないこと。合格者は入学手続き時に原本を持参すること。</p> <p>※出願資格「ケ」又は「コ」により出願する者で提出可能な場合は、受験資格審査を申請する際に提出すること。</p>
⑤	<p>TOEIC 公開テストの公式スコア または、TOEFL のスコア票 <b>(B類と追加募集のみ必要)</b></p> <p>※原本 (コピーは不可)</p>	<p>TOEIC 公開テストの公式スコアは出願日より 4 年以内のものを提出すること。尚、TOEIC 公開テストの種類はListening &amp; Reading に限る。2023 年 3 月以前に実施した公開テスト成績は、Web サイトからダウンロードし印刷された成績表は不可。一方、2023 年 4 月以降に実施の TOEIC Listening &amp; Reading 公開テスト成績を提出する場合は、従来の公式認定証の代わりに、デジタル公式認定証の写しを提出することも可能。デジタル公式認定証の写しを提出する場合は、デジタル公式認定証の写しの裏面にデジタル公式認定証 URL も記載のこと。</p> <p>TOEFL (iBT) の公式スコア票は、米国 ETS から本学(Nagoya City University-Entrance Examination Division DI コード: B212) へ出願日までに到着するよう、送付依頼すること。</p> <p>※各検定試験が有効期間を定めている場合は、出願の時点でその期間内のものを有効とする。</p> <p>※TOEIC, TOEFL は、必ず出願期間内に成績が提出できる回を受験すること。</p> <p>※特別な理由のため原本の送付ができない場合は、事前に連絡すること。</p> <p>※国費・県費留学生は提出の必要はない。</p>
⑥	志願理由説明書	<p>[本学所定用紙様式 3 使用]</p> <p>手書きでなくてもよいが、必ず所定用紙を使用すること。日本語以外で記入する場合は日本語訳を添付すること。</p>
⑦	<p>修士学位論文・ 修士学位作品に 関する計画書 <b>(追加募集のみ必要)</b></p>	<p>[本学所定用紙様式 7 使用]</p> <p>手書きでなくてもよいが、必ず所定用紙を使用すること。日本語以外で記入する場合は日本語訳を添付すること。</p>
⑧	(日本国籍を有しない者は提出) 住民票	<p>外国籍の者で在留資格がある者は住民票を提出のこと。</p> <p>在留資格が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出すること。国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出すること。</p> <p>※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得すること。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出すること（在留の資格、期間、満了日や在留カード番号は省略しない）。</p>

⑨	入学検定料等 (30,344円)	<p>振込依頼書(本学所定のもの)を使用し、必要事項を記入の上、30,344円(入学検定料30,000円+受験票等送付のための速達郵便料金344円)を添えて銀行などで振込むこと(ゆうちょ銀行では取り扱わない。またATM等は使わず必ず窓口で振込むこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振込手数料は志願者本人が負担のこと。</li> <li>・銀行などから受け取った「検定料納付証明書(B票)」を提出すること。</li> </ul> <p>※「振込金(兼手数料)受領書(A票)」は志願者が保管すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として既納の入学検定料は返還しない。但し、以下の場合は、納入された入学検定料を返還するので、本学ウェブサイトを確認すること。</li> <li>①二重で振り込みをした場合</li> <li>②入学検定料等の振り込み後、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合も含む。)</li> </ul>
⑩	あて名用シール	[本学所定用紙使用] 返信先を明記すること。受験票等の送付及び可否の通知に使用するため、確実に受領できる住所・氏名を記入すること。
⑪	出願書類提出用封筒	出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>に必要事項を記入すること。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛て郵送すること。

※出願時に職を有する者または社会人特別選抜のみ提出が必要な書類

⑫	受験許可書 (在職中の場合のみ)	[本学所定用紙様式4]を使用のこと
⑬	在職証明書 (社会人特別選抜のみ)	[書式自由]所属したあるいは所属している企業等による通算して2年の勤務実績がわかる書類を提出すること。

※ 出願資格「ケ」又は「コ」により受験資格審査(P3 3出願資格「ケ」又は「コ」による受験資格の審査について)を経て出願する者は、この表に指定する書類のうち、受験資格審査時に提出したもの以外の書類を提出すること。

※ 修了証明書及び成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出すること。

(3) A類(学内推薦を除く)および追加募集出願者が試験当日に持参する物

A類(学内推薦を除く)および追加募集の出願者は、以下のいずれかを試験日当日に持参すること。詳細については受験票とともに案内を送付する。

- ① ポートフォリオ<作品集>
- ② 作品
- ③ 既発表の学术论文のコピー
- ④ 既発表の口頭発表講演集のコピー
- ⑤ ①~④がない者は、今までの研究内容、または、入学後の研究計画を具体的に記述したもの

6 障がい等を有する入学志願者との事前相談

障がい等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、出願前までに必ず[学生課入試係・芸術工学研究科担当](P4)まで申し出ること。

7 入学者選抜期日及び方法等

(1) A類(学内推薦)

- ① 選抜方法 書類審査(面接試験免除)

(2) A類(一般選抜)

① 試験期日、試験時間、試験科目等

試験期日	試験時間	試験科目
令和6年 7月6日(土)	10:00～(予定)	面接試験

② 選抜方法 出願書類、面接、5(3)の提出物を総合的に判断する。

③ 関連領域及び修士論文指導教員

関連領域	修士論文指導教員
情報環境デザイン領域	P12～13の別表「指導教員および研究指導テーマ」を参照すること。
産業イノベーションデザイン領域	
建築都市領域	

④ 試験会場及び集合時刻

名古屋市立大学 北千種キャンパス (名古屋市千種区北千種二丁目1番10号)  
詳細は、受験票とともに案内を送付する。

(3) **B類**

① 試験期日、試験時間、試験科目等

ア **一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜(私費外国人留学生)**

※面接時間については出願状況により変更の可能性がある。

試験期日	試験時間	試験科目
令和6年 9月7日(土)	9:30～11:30	<b>学科(筆記)</b> 問題は情報環境デザイン領域、産業イノベーションデザイン領域、及び建築都市領域から出題される。 願書に記入した第1指導教員が情報環境デザイン領域あるいは産業イノベーションデザイン領域の受験生は、それぞれの領域の問題から1問、両領域を合わせた問題から1問、全領域から1問、合計3問を選択し解答する。 願書に記入した第1指導教員が建築都市領域の受験生は、建築都市領域の問題から2問、全領域から1問、合計3問を選択し解答する。
	13:00～14:00	<b>小論文(筆記)</b>
	14:10～17:00	<b>面接試験</b>

イ **外国人特別選抜(国費・県費等外国人留学生)**

試験期日	試験時間	試験科目
令和6年 9月7日(土)	13:00～14:00	<b>小論文(筆記)</b> (英語による出題)
	14:10～17:00	<b>面接試験</b>

② 選抜方法

入学者選抜は、出願書類及び筆記・面接試験の結果を総合して行う。

③ 関連領域及び修士論文指導教員

P8 7(2) A類(一般選抜) ③と同様とする。但し、B類で出願する場合は第2希望教員で合格する場合がある。

④ 試験会場及び集合時刻

名古屋市立大学 北千種キャンパス (名古屋市千種区北千種二丁目1番10号)  
詳細は、受験票とともに案内を送付する。

#### (4) 追加募集

※A類・B類の合格者数合計が入学定員に満たない場合は追加募集入試を実施する。

① 試験期日、試験時間、試験科目等

##### ア 一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜（私費外国人留学生）

※面接試験については出願状況により試験時間が変更となる場合がある。

試験期日	試験時間	試験科目
令和7年 1月11日(土)	10:30~11:30	小論文(筆記)(日本語による出題)
	13:00~	面接試験: 次の2項目に関するプレゼンテーションを行う。 ①これまでの研究あるいは作品の概要、②「志願理由説明書」と「修士学位論文・修士学位作品に関する計画書」に基づく、入学後の研究あるいは制作に関する構想。発表時間は5分以内とする。パソコンなどの機材の使用は不可、ただしポータフォリオや卒業研究の概要などを回覧、配付しての説明は可とする。

##### イ 外国人特別選抜（国費・県費等外国人留学生）

※面接試験については出願状況により試験時間が変更となる場合がある。

試験期日	試験時間	試験科目
令和7年 1月11日(土)	10:30~11:30	小論文(筆記)(英語による出題)
	13:00~	面接試験: 次の2項目に関するプレゼンテーションを行う。 ①これまでの研究あるいは作品の概要、②「志願理由説明書」と「修士学位論文・修士学位作品に関する計画書」に基づく、入学後の研究あるいは制作に関する構想。発表時間は5分以内とする。パソコンなどの機材の使用は不可、ただしポータフォリオや卒業研究の概要などを回覧、配付しての説明は可とする。

② 選抜方法 入学者選抜は、出願書類及び筆記・面接試験の結果を総合して行う。

##### ③ 関連領域及び修士論文指導教員

関連領域	修士論文指導教員
情報環境デザイン領域	P12~13の別表「指導教員および研究指導テーマ」を参照すること。 各指導教員を希望する学生が多い場合は、第2希望指導教員で合格する場合がある。 なお、出願の際、研究室定員の都合で希望指導教員として選択できない場合があるので事前に必ず相談のこと。
産業イノベーションデザイン領域	
建築都市領域	

##### ④ 試験会場及び集合時刻

名古屋市立大学 北千種キャンパス (名古屋市千種区北千種二丁目1番10号)

詳細は、受験票とともに案内を送付する。

## 8 合格発表

(1) A類: 令和6年7月19日(金) 14:00

(2) B類: 令和6年9月27日(金) 14:00

(3) 追加募集: 令和7年1月24日(金) 14:00

芸術工学研究科管理棟玄関にて合格者の受験番号を発表するとともに、本人あてに合否を通知する。

## 9 入学手続

(1) 手続期日(予定)

A類 令和6年8月上旬

B類 令和6年10月上旬

追加募集 令和7年2月上旬

(2) 手続方法

入学許可通知とあわせて速やかに詳細を本人宛て通知する。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料 (現行)	名古屋市住民等	232,000 円	注1)
	その他の者	332,000 円	
イ 学生教育研究災害傷害保険料 (現行)		1,750 円 (2年間)	注2)
ウ 学研災付帯賠償責任保険料		680 円 (2年間)	注3)

注1) 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が入学の日(4月1日)において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指す。

注2) 国内外において、定められた教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に被る傷害に対する補償である。

注3) 国内外において、正課、学校行事、課外活動又はその往復により他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等において、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対する補償である。

注4) 入学料等は入学手続時までに金融機関で納入すること。既納の納付金は返還しない。

注5) 上記は令和6年度入学者の金額である。令和7年度については改めて通知する。

## 10 入国手続

外国人に関して、入学期日(令和7年4月1日)までに正規の入国手続が完了していない場合は、入学許可を取り消すことがある。

## 11 授業料

年額 535,800 円(前期・後期分 各 267,900 円)

注1) 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて納めること(口座引落)。

注2) 上記は令和6年度入学者の金額である。令和7年度については改めて通知する。また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用する。

注3) 必要な諸経費について別途徴収することがある。

## 12 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には審査のうえ、授業料の全額または半額、もしくは4分の1の額が免除される。

詳しくは、学生課学生支援係(TEL:052-872-5042)まで問い合わせること。

## 13 奨学金制度

日本学生支援機構において、大学院学生に対する貸与制度がある。

希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査のうえ、推薦手続きをとる。

## 14 「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」について

(1) 本プログラムについては近日中に本学HPで公開予定の募集要項で確認のこと。修学上の支援として助成金4万円/月支給制度あり。

(2) 募集定員の枠内で「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」について若干名募集する。出願できる者は名古屋市立大学大学院芸術工学研究科博士前期課程の入学試験に合格し、令和7年4月入学が決まっている者とする。本プログラム履修者は、入学試験に合格した者の中から学内選考を経て決定する。

※本プログラムを履修する学生は、「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」の修了要件に加え、芸術工学研究科博士前期課程の修了要件を満たす必要である。

## 15 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準履修期間を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができる制度。

- ・標準履修期間：博士前期課程の場合は2年
- ・長期履修制度：上記履修期間を2年延長することができる（標準で最大4年の履修期間）。
- ・授業料の年額：標準履修期間の授業料総額を、決定された履修期間で按分した額とする。

## 16 注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合は受理しない。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがある。
- (3) 出願書類等は返還しない。
- (4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係・芸術工学研究科担当〕（P 4）に連絡すること。
- (5) 二重学籍は原則禁止とする。

## 17 緊急時における大学からのお知らせ

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイト等により周知するので、受験前は特に注意すること。

また、受験者本人へ直接連絡する場合があるので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を記入すること。

- 本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

## 18 個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱う。

### (1) 個人情報の利用

- ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うために使用する。
- イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合がある（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行う）。
- ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用する。

### (2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがある。

## 19 敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

別表 指導教員および研究指導テーマ

関連領域	指導教員	研究指導テーマ
情報環境デザイン領域	小俣 英彦 准教授	現代美術、立体造形、彫刻、写真、芸術実践論 現代芸術表現の可能性、文化の共有と継承に関する研究
	神沼 英里 准教授	人工知能(AI)を用いた持続可能な社会実現のための自動注釈研究。人間とAIの協働デザインの研究
	栗原 康行 教授	映像及び映像コンテンツ作品等の制作と研究 映像カテゴリーについては個人映像、実験映画、ドキュメンタリー、劇映画など、幅広く扱う。またそれらの複合・中間的な研究テーマも扱う。
	小鷹 研理 准教授	身体イメージの可塑性に関わる認知心理学的研究
	小林 桂 講師	インタラクションデザイン、情報デザインに関する研究
	辻村 誠一 教授	細胞レベルから神経回路網、人の知覚・認知までを研究対象として脳と心の仕組みを明らかにする。特に概日リズムに関連するメラノプシン細胞の脳内での機能的役割の解明に着目している。
	中川 隆 准教授	映像デザイン、メディア・アート、インタラクティブ・アートに関する研究
	針貝 綾 教授	美術、デザインの歴史的研究
	松宮 圭太 准教授	作曲、音楽情報、音楽理論、ハイブリッド楽器、電子音響音楽に関する研究
	横山 清子 教授 (本研究科とデータサイエンス学部兼務) ※	生体信号・動作データの処理と可視化手法の開発及び人間工学応用に関する研究
産業イノベーションデザイン領域	影山 友章 准教授	プロダクトデザイン、GUI デザイン、「余白」に関するデザイン研究
	影山 正幸 准教授	マルコフ決定過程、非加法性測度に関する研究
	加藤 大香土 准教授	マンマシンインタフェース、特に、最新技術を駆使した未来の医療福祉プロダクトの研究開発。人体力学・人体生理学に基づく、新たな視点からの生体医工学・統合デザイン研究
	中川 志信 教授	UX デザイン ロボティクスデザイン 先端インダストリアルデザイン アートをサイエンスしてデザインエンジニアリングに落とし込む UX デザイン
	埜 大 教授	情報通信工学、特に人工現実感、CSCW における情報通信、センサネットワークの応用に関する研究
	松本 貴裕 教授	光・電磁波 (X線~THz 領域) とナノ空間電子との相互作用の研究 並びに本原理を用いた新規デバイスのデザイン
	森 旬子 教授	グラフィックデザイン・コミュニケーションデザインの研究

関連領域	指導教員	研究指導テーマ
建築都市領域	青木 孝義 教授	既存ストックや建築遺産の調査診断技術、構造ヘルスマonitoringと安全性評価、保存と活用
	伊藤 恭行 教授 ※	都市・伝統的集落の景観・空間構造に関する研究
	大野 暁彦 准教授	ランドスケープデザイン、庭園デザイン、景観デザインなどの設計及び調査・研究
	木村 俊明 准教授	シェル構造の構造計画と設計、構造最適化を用いた設計手法の開発とその応用、建築構造デザインに関する研究
	久野 紀光 教授	近代及び現代を中心とした建築意匠及び空間配置の読解に関する研究 現代都市の空間配置に関する再解釈に関わる研究
	佐藤 泰 講師	人間の心理・認知の視点も考慮した環境心理・環境行動研究 オフィス内外の「働く場」における集中／交流／休憩空間の提案
	太幡 英亮 教授	建築計画学、建築・家具設計 子ども関連・大学施設・街路空間などを対象にした人間の身体・心理・行動・交流の視点からの研究と実践
	溝口 正人 教授 ※	歴史的な建築・都市・集落の生成過程と意匠や空間の特質、歴史を活かしたまちづくりに関する研究
	向口 武志 教授	近代都市計画に関する史的な研究、伝統的な都市や集落の構成とその空間に関する研究
	尹 奎英 教授	空気調和システムのエネルギーマネジメント、自然・未利用エネルギーを利・活用するパッシブ建築設計手法の提案

注) ※印のついた教員は、指導教員として選択することができない。